



信太の森ニュース

No. 38
2021年5月12日

文責 田丸八郎



新緑が美しい惣ヶ池湿地は、今年は南方からの渡り鳥も、訪れる人も少なく静かです。

昨年5月の連休は、新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言が出されいてる中で、繁華な場所への外出を避け、人気の少ない惣ヶ池湿地を訪れる人が多かったことを前号でお伝えしましたが、今年5月の連休も新型コロナ第四派の感染拡大により緊急事態宣言が出される中で迎えました。

今年の連休は雨の日が多かったということもありますが、連休に惣ヶ池湿地を訪れた人はさすがに少なかったようです。

暖冬で桜をはじめ自然の生き物たちの活動が半月ほど早かった今年は、5月の連休辺りで新緑に包まれる惣ヶ池湿地の森も既に木の葉の色が濃くなっています。

隣接する「信太山丘陵里山自然公園」予定地では、数年前に放火されて枯れてしまったツツジの丘のヤマツツジやモチツツジが成長も早く、見事に花を咲かせています。

このツツジの丘では放火された以降、キキョウやオミナエシが復活したことはNo34号でお知らせし、「山焼き効果」の検討をお伝えしましたが、山焼きをすればツツジまで焼いてしまうことになるので、実行するまでには至っていませんでした。幸いにも近くに「公園予定地」に挟まれた菜園があり、そこで焼かれた木灰、藁灰を戴くことができたので、この春、花咲か爺さんになった積りで灰を撒きました。その効果を期待しています。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

信太山丘陵里山自然公園協議会では、本年7月頃に「暫定開園」を目指し、信太5号線西側エリアの園路（簡易の）づくりを始めました。

これまで、活動日の午後からのミーティング終了後に杭打ちとロープ張りを2回行いましたが、一般参加者が園路づくりにも参加できるように活動日の午前中に実施することを提案して実施することになりました。

暫定開園はいいとしても、今年度から本格的に始まる管理棟予定地の史跡発掘調査や正式開園に向けた工事が行われる中で、暫定開園後の利用（開放）と管理をどのようにしていくのか疑問が多く残るところです。

気になる動き

公園予定地・東エリアに隣接する場所にコンテナ置き場があります。5月3日、ブルドーザーのエンジン音がするので同行のIさんと行ってみると、コンテナは3、4台を残して大部分がなくなり、ブル2台が土砂処理に動いていました。

そこで聞いた話によると「子どもの遊び場を作るそうだ」とのことでした。

翌日、現地に隣接する菜園に行くと、そこで菜園をやっている当クラブ会員のAさんから「・・興業の人が来て少年野球練習場を作るので、子どもの声でうるさいが・・」とあいさつに来たという話でした。市の公園緑地課に問い合わせると「そこは都市計画をうってあるので、勝手に開発は出来ないことになっている」とのことでした。

これとは別に、最近ある市会議員のチラシに「信太山丘陵里山自然公園整備事業」について述べた後、「この土地は一度は計画され、先送りされている北部地区スポーツ施設整備につき、和泉推進⇒創発プランに引き続き計画はされているものの、依然進展のないままで

あります。」として一般質問するとの記事が載っていました。

今後「泉北水道企業団跡地」の問題もあり、注目していく必要があります。

泉北水道企業団解散と惣ヶ池湿地

惣ヶ池湿地の地権者である泉北水道企業団の3月末解散については、前号No37号でお知らせしました。

絶滅危惧種が多く棲息する惣ヶ池湿地の今後の使用に関して、解散前には地権者と大阪みどりのトラスト協会とで契約書を交わす方向で話が進められていました。

水道企業団解散後、地権者である水道企業団構成自治体を代表した和泉市（担当：水道事業部）からトラスト協会に対して「契約書」ではなく、当クラブから「使用許可申請書」を毎年提出し、和泉市が「使用許可書」を発行するという方向の提案がありました。

この件に関してトラスト協会から当クラブに相談があったので、過去の経緯から「使用許可申請書」はトラスト協会から和泉市に提出していただきたい旨を伝え、トラスト協会から提出して貰うことになりました。

今年度も財)大阪コミュニティー財団による「和泉市水仙基金」の助成が決まりました。

FANクラブとしては、これまで通り惣ヶ池湿地の希少生物を保護しながら保全活動を進めていきます。併せて第3期の木道整備を行うことにしています。



ヤマツツジが満開のツツジの丘

タラの芽の天ぷらと外来野草のご馳走

春は山菜が美味しい季節です。タラの芽、セリ、ミツバ、ヨモギ、フキノトウ等々。

今年は春が早く来たので木々の芽も出るのが早く、惣ヶ池湿地にあるタラの芽は、湿地にやって来るメンバーに虎視眈々と狙われる存在でした。

そこで「みんなで野草の天ぷらを食べる会をやりませんか」と提案した結果、4月12日の惣ヶ池湿地の活動日の昼食時に実施することになりました。

その後の公園協議会の保全活動日に大阪府立大学大学院の藤原教授が「食べられる外来植物」を研究している学生を連れて来ていて、FANクラブの「野草の天ぷら」の話聞き「一緒にやりませんか」ということになりました。

学生の狙いは外来種のスイレンとセイタカアワダチソウのようで、惣ヶ池湿地の活動日には、先生と女子学生2名が参加して一緒にスイレン堀を行いました。

午前中の作業を終え、FANクラブがタラの芽とフキノトウ（茎）の天ぷらを作り、学生と先生で外来種スイレンとセイタカアワダチソウの調理。



FANクラブが作った天ぷらは、その場で摘み取ったものではなく、10日ほど前に摘み取り、真空で冷蔵していたもので、揚げ過ぎたきらいもあってか、食した誰からも「美味しい」という言葉が聞けず、折角の旬の味

は味わえなかったようです。

一方、府大生スイレンとセイタカアワダチソウの料理は、根っこを調理するものとばかり思い、根っこをみんなで掘り起こしたのですが、調理に使われたのは根っこでなく茎（葉柄）の方でした。スイレンの茎とシイタケの炒め物、セイタカアワダチソウをヨモギの代用に使ったヨモギ餅風の草餅に餡を載せたもので、どちらも癖がなく美味しくいただきました。



FANクラブのタラの芽とフキノトウの茎の天ぷら

大阪府大生が作ったスイレンの炒め物（右）とセイタカアワダチソウの草餅（左）



分散での定例観察会

FANクラブ主催の定例観察会は、最近一般参加者が増えつつあります。3月までは、密を避けながらそれぞれ間隔をとりつつ実施してきました。

しかし、4月は大阪での感染拡大が続き、3回目の緊急事態宣言が発令された25日の観察会には、広報「いずみ」を見た一般参加希望者が10名ほどあり、会員のみなさんには中止の連絡をさせていただきました。

一般参加者についても中止する積りでしたが、信太山丘陵はこの時期ツツジが満開で見頃の時。この時期の信太山丘陵を是非見てほしいとの思いから参加者を5班に分け、各班にFANクラブ会員が1名付いて案内するこ

とし、10分程度の間隔を空けて班別にスタートするという方法で実施しました。

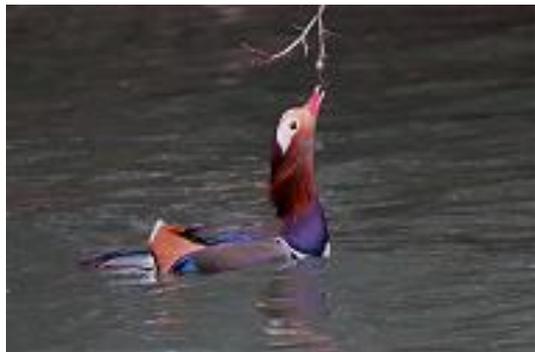
一般参加者のみなさんには、満開のツツジに満足していただいたよです。

オシドリをレスキュー

コロナ過のなかで、外出はできるだけ控えるようにしているのですが、天気がいい日は人気のない信太山丘陵に足が向いてしまいます。

2月4日、惣ヶ池湿地で高石から1時間かけて歩いてやって来るHさん（会員）とコーヒーを飲みながら話をしました。

Hさんが帰った後、惣ヶ池湿地でチェンソーを掃除しているところへHさんが血相を変えて戻ってきて「鳥が釣糸にかかってもがいているんですが、どうしたらいいですかね」と。取敢えずそこへ行ってみようと一緒に行ってみると、なんと岸部から水面上に突き出た木に絡んだ釣糸にオシドリがかかり、懸命に釣糸から逃れようともがいていました。



釣り針にかかったオシドリのオス

湿地の格納庫を2、3往復し、ノコギリ、竹竿、ロープなど救出用具を揃えて救出作業をおこなった結果、釣糸が外れてオシドリが対岸のヨシの繁みに逃げていきました。

釣糸が外れたのはいいとしても、釣り針を飲み込んでいて餌がとれないのでは？と心配をしていました。

後日、オシドリが釣糸にかかった写真をH

さんから送って貰い、それをよく見ると釣り針は嘴の先端にかかっており、救出作業時に小枝に掛けたロープを引いたり緩めたりした際に糸の緩みができて運よく嘴から針が外れたのではないかと推察でき、無事レスキューできたことをHさんと喜び合いました。

生き物ウォッチング

信太山丘陵の冬期の野鳥をウォッチングしてみると、水鳥ではオオバン、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ヨシガモ、ミコアイサ、オシドリ、カルガモ、マガモ、コガモ、カンムリカイツブリ、カワアイサ、カワウなどでした。

この中で初記録の水鳥は、惣ヶ池とふるさと館の鏡池でオシドリが、大野池でカワアイサが初めて観察されました。



カワアイサ



ハチジョウツグミ

陸鳥では、ルリビタキ、ジョウビタキ、アオジ、カシラダカ、シメ、マヒワ、アトリ、シロハラ、ツグミ、ハチジョウツグミ、オオタカ、ハイタカ、ミサゴ、ノスリが観察され、ハチジョウツグミが初記録となりました。

植物では、花つけるヤマザクラ、クロバイの木が増えてきたようです。また、これまで1本しか確認されていなかったシデコブシ（別名：ザイフリボク）が惣ヶ池湿地の奥で2本あることも今年確認されました。いずれも若木が成長して花を咲かせるまでに成長してきたということです。

編集後記

オリンピックどころではないはず。今回の緊急事態宣言は長引きそうな気配です。くれぐれもご自愛いただきコロナ過を乗り切りましょう。